

# 週刊 タバコの正体



左のような光景をよく目にしますよね。そうです、コンビニのレジ付近の写真です。どこのコンビニでも、ほぼ同じように200種類ちかくのタバコがズラッと陳列されているので、必ず支払いをする人の目にとまります。

こんなに多くの種類があるのかと感心させられるのと同時に、人々の健康を損ねる商品をこんなに堂々と販売してもいいものなのか、とも思います。

しかし、左のグラフにあるように、タバコは商品群別売上高構成比率で25%前後を占めるほど売れる商品なのです。つまり、それだけ喫煙者がいると言う事です。

経営上、売れる商品をたくさん陳列するのは自然な事なのですが、様々な病気の原因となるタバコが売れるのは良くないですよ。

人々の健康を大切にするために、タバコは売れる商品ではなく、売れない方がよい商品なのだと、認識すべきだと思います。

産業デザイン科 奥田 恭久

